

## 総合ゼミ報告——今年度の実施状況

畑 陽子 愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程（音楽学領域）

### 1. はじめに

音楽学研究総合ゼミ（以下、総合ゼミ）では、週に一度音楽学コースに属する学生と教員が集まり、それぞれの研究についての発表や意見の交換が行われる。2006年度に開設された「音楽学コロキウム」（学生と教員が同じ立場で発表し意見を交換するオープンな場を目的として開設）が母体となっており、2008年度に「音楽学研究総合ゼミ」としてカリキュラムに組み込まれた。学部生は必修で、大学院生も原則として出席することになっている。

総合ゼミでは、音楽学コースの教員や学生による研究発表だけでなく、外部の研究者をゲストスピーカーとして招きレクチャーしていただいております、一部公開講座としている。また音楽分野以外の研究者にもご登壇いただき、内容は多岐に渡った。

### 2. 2016年度の総合ゼミにおいて行われた講座

- 5月12日 村田四郎名誉教授（愛知県立芸術大学・フルート）  
「村田四郎のここでき聞けない話 Part4——ツトム・ヤマシタ《赤い仏像》“The Man from the East” 回顧録」
- 5月19日 小林英樹名誉教授（愛知県立芸術大学・油画）  
「『定説』を洗い流す：ファン・ゴッホを例に」
- 5月26日 山田千佳子氏（NHK名古屋放送局・制作部ディレクター）  
「音楽番組制作ディレクターという仕事」
- 6月2日 寺内直子教授（神戸大学・国際文化研究科）  
「名古屋の雅楽～史料が語ること」
- 6月9日 井上さつき教授（愛知県立芸術大学・音楽学）  
「政吉ヴァイオリンがニュースになるとき」
- 6月16日 高梨光正准教授（愛知県立芸術大学・芸術学）  
「『ドレミ』は本当に『ドレミ』なの？」

- 6月23日 村上和人教授（愛知県立大学・情報科学部情報科学科）  
「メディア処理あれこれ～画像処理からロボカップまで～」
  
- 7月7日 森真弓准教授（愛知県立芸術大学・デザイン）  
「音楽学の学生のためのインフォグラフィックス講座」
  
- 10月20日 増山賢治教授（愛知県立芸術大学・音楽学）  
「第二次世界大戦前後の日本映画から見聞する中国音楽について」
  
- 10月27日 三木隆二郎氏（NPO 法人トリトン・アーツ・ネットワーク理事）  
「病院における音楽アウトリーチについての考察」
  
- 11月10日 村田四郎名誉教授（愛知県立芸術大学・フルート）  
「村田四郎のここでしか聞けない話 Part5——ツトム・ヤマシタ《赤い仏像》“The Man from the East” 回顧録—続編」
  
- 11月17日 井上さつき教授（愛知県立芸術大学・音楽学）  
「マダム・バタフライとマダム貞奴」
  
- 12月1日 高梨光正准教授（愛知県立芸術大学・芸術学）  
「『企画』を立てる」
  
- 12月15日 エレオノーラ・バーニ（ミラノ大学／愛知県立芸術大学芸術学への留学生）  
「『具体』ムーヴメント入門」
  
- 1月12日 イヴ・フェラトン教授（ロレーヌ大学・音楽学）  
「ポリニャック大公妃のパリのサロンとフランスの作曲家たち（1880-1940）」
  
- 1月26日 小林英樹名誉教授（愛知県立芸術大学・油画）  
「絵画の展開から見たジャポニズム（ファン・ゴッホの作品を中心に）」

また、上記各講座以外にも、学部生、院生による研究発表やオンライン・データベース講習会、宗次ホール主催「くらしの中にクラシック」コンテストの報告会なども行われた。コンテストについては、次に概要を報告する。

### 3. 「くらしの中にクラシック」コンテスト

2016年8月31日（水）に、宗次ホールが主催した音楽ホールのマーケティングコンテストが開催された。音楽学コースでは、5人のコンテスト参加メンバーを中心に、空き時間のミーティングを通して準備を行い、コンテストに出場した。

4月の総合ゼミには、宗次ホールの野間支配人にお越しいただき、コンテストの概要について説明していただいた。6月には、宗次ホールにて参加大学（4大学）同士の中間発表が行われた。また、総合ゼミ内においても同様の中間発表を行った。

中間発表での講評をもとに、音楽学コースでは「いきぬきに勉強はどうですか？—受験生のためのコンサートの提案—」と題したプレゼンを行った。これは「国語」や「数学」など、高校の教科と連携したコンサートを行うという企画で、特にプログラミングについて高い評価を受けた。その結果、第2位と聴衆賞を受賞するに至った。

### 4. おわりに

本年度も、音楽だけでなく多様な分野の専門家の講演の機会に恵まれた。講座を行っていただいたゲストスピーカーの方々に感謝申し上げるとともに、今後とも音楽学コースの発展に向けて日々努力していきたい。